長崎大学 子どもの心の医療・教育センター
―子どもの心の支援にかかわる高度人材育成プログラム2023―

【研修報告】B-II 発達障がい児・者の性発達と性行動（講師：宮原 春美）

◆子どもの性的問題行動とは

発達的に見て不適切あるいは攻撃的な性的行動を示す12歳以下の子ども

要素

高い頻度でみられる、その子どもの社会的・認知的発達を阻害、強制・脅し・強要がある

情緒的不快感に繋がる、異なる発達・年齢の子どもの間に起こる、介入により秘密裏に繰り返される

◆正常な性的行動と性的問題行動

正常な性的行動 ： 探索的で自発的

お互いの了解のもとに行われる、同等の体格・年齢・発達段階、強い性的興奮を伴わない

性的問題行動 ： 攻撃的で強制的

適切な指摘にもかかわらず繰り返す、ほかの行動ができなくなる、異なる体格・年齢・発達段階

大人の性犯罪

性に関する固定された、出来上がった行動

子どもの性加害（性的問題行動）

不適切な環境などの逸脱した要素

個人の特性：衝動性、我慢する力が足りない

・傷ついた体験 ▸ 治療　　・学んで気付く ▸ 学習

◆性の問題行動への支援の基本

性が問題になる子どもは性の問題しかないのか

対人関係の問題、感情コントロール、いじめ、認知機能、発達の偏り、家庭環境

コミュニケーション力

相手の表情やその背景を読み取る、共感できる、言葉とその意味を読み取る、気持ちを伝える

脳機能の問題

わかっていてもやめられない→ブレーキをかける力

ストレスがリスクを高める

ストレス耐性が低く感じやすい、発散法を知らない

◆支援方法

問題発生を分析

本人の嗜好、衝動性のコントロール、発達特性、知識

問題への対応

基本的知識の確認、障がい特性を考慮した支援

適切な行動がとれているか確認

できている場合は良好なフィードバック

目標：周囲の人に迷惑をかけていないか、マナーを守っているか、法律に触れないか